

21 番の歌 神の王国をいつも第一にする

「永続する都市」を待ち望む

「私たちは.....これから来る都市を心から待ち望んでいるのです」。ヘブライ 13:14

ポイント：ヘブライ 13 章のアドバイスは、今そして将来どのように役立つでしょうか。

1. イエスは 1 世紀のエルサレムについてどんなことを預言しましたか。

イエス・キリストは亡くなる数日前、終わりの時代にどんなことが起きるかについて詳しく預言しました。その預言はまず、当時のユダヤ人の体制が滅びた時に実現しました。イエスは、「エルサレムが陣営を張った軍隊に囲まれる」と予告し、その様子を見たらすぐに逃げるようにとも言いました。やがてイエスが言った通り、ローマ軍がエルサレムを取り囲み、クリスチャンが逃げるべきタイミングがきました。（ルカ 21:20-22 エルサレムが陣営を張った軍隊に囲まれるのを見たなら、その時、荒廃が近づいたことを知りなさい。 21 その時、ユダヤにいる人は山に逃げ始めなさい。都の中にいる人はそこを出なさい。田舎にいる人は都に入ってはなりません。 22 なぜなら、これは処罰が下される期間であり、書かれていること全てが実現するのです。）

2. パウロは、ユダヤとエルサレムに住むヘブライ人のクリスチャンにどんなことを教えましたか。

2 エルサレムがローマの軍隊に囲まれる数年ほど前に、使徒パウロはヘブライ人のクリスチャンに宛てて手紙を書きました。この手紙を通して、ユダヤとエルサレムに住むクリスチャンに大切なことを教え、これから待ち受けていることに向けて心の準備をさせました。何が待ち受けていましたか。エルサレムは滅びることになっていました。生き残るためにには、家や仕事を手放す覚悟が必要でした。それで使徒パウロはエルサレムについて、「私たちは永続する都市をここに持って[いない]」と言いました。そして、「これから来る都市を心から待ち望んでいる」と続けました。（ヘブ 13:14 私たちは永続する都市をここに持っておらず、これから来る都市を心から待ち望んでいるのです。）

3. 「真の土台を持つ都市」とは何ですか。私たちがそれを待ち望んでいるのはどうしてですか。

3 エルサレムとユダヤから逃げることにしたクリスチャンは周りからあざけられ、笑われたはずです。でも、逃げたからこそ生き延びられました。私たちも周りからばかにされることがあります。人間の力で世の中の問題を解決できるとか、お金があれば安心できると考えたりしないからです。私たちは今の世の中がもうすぐ終わることを知っているので、そういう姿勢を貫きます。「これから来る」「真の土台を持つ都市」、つまり神の王国を待ち望んでいます。*聖書時代、多くの都市は王によって治められました。それで、そういう都市は王国と見なされることがありました。（創 14:2 それらの王が 5 人の王と戦った。ソドムの王ベラ、ゴモラの王ビルシャ、アドマの王シヌアブ、ツェボイイムの王シェムエ

ベル、ベラ（ゾアルとも呼ばれる）の王である）（[ヘブ 11:10](#) アブラハムは眞の土台を持つ都市を待ち望んでいたのです。その都市の設計者および建設者は神です。[マタ 6:33](#) ですから、王国と神から見て正しいことをいつも第一にしなさい。そうすれば、こうしたほかのもの全ても、あなたたちに与えられます。）この記事では次の3つのポイントを考えます。（1）パウロのアドバイスは、**1世紀**のクリスチヤンが「これから来る都市」を待ち望むためにどう役立ったか。（2）パウロはこれから起きたことに向けてどのように心の準備をさせたか。（3）パウロのアドバイスは**今の私たち**にどう役立つか。

どんなときも私たちを見捨てないエホバを信頼する

4. クリスチヤンにとってエルサレムが特別な都市だったのはどうしてですか。

4 当時のクリスチヤンにとって、エルサレムは特別な都市でした。西暦33年にクリスチヤン会衆ができたのも、統治体がいたのも、エルサレムでした。多くのクリスチヤンがエルサレムに家を構え、財産も蓄えていました。でもイエスは弟子たちに、エルサレムからもユダヤからも逃げるようにと言いました。（[マタ 24:16](#) その時、ユダヤにいる人は山に逃げ始めなさい。）

5. パウロはどんなことに注目させましたか。

5 パウロはクリスチヤンに心の準備をさせるために、エホバがエルサレムをどう見ているかに注目させました。エルサレムの神殿も祭司も犠牲も、エホバから見て今はもう神聖なものではない、ということを教えました。（[ヘブ 8:13](#) 神は「新しい契約」と言うことにより、以前の契約を廃止されたものとしました。廃止されて古びていくものは、間もなく消え去ります。）そこに住む人たちの多くがメシアを退けました。神殿はもはや清い崇拜の中心地ではなく、やがて滅ぼされることになります。（[ルカ 13:34, 35](#) エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、遣わされた人々を石打ちにする者よ、私はめんどりが翼の下にひなたちを集めるようにあなた方を集めたいと何度も思つたことでしょう。しかし、あなた方はそれを望みませんでした。35 聞きなさい、あなたの家は見捨てられます。あなた方に言いますが、あなた方は、『エホバの名によって来られた方が祝福されますように！』と言う時まで、決して私を見ることはありません）。）

6. [ヘブライ 13章 5, 6節](#)のパウロの言葉が、当時のクリスチヤンにとってタイムリーだったのはどうしてですか。

6 パウロがヘブライ人のクリスチヤンに手紙を書いた頃のエルサレムは、活気にあふれた都市でした。あるローマの著述家は、当時のエルサレムについて「東方で最も有名な都市」と書いています。毎年祭りを祝うためにいろいろな国からユダヤ人が訪れたことで、エルサレムは経済的に潤っていました。そのおかげで豊かな暮らしをしていたクリスチヤンもいたはずです。そういうこともあってか、パウロは次のようにアドバイスしています。「お金愛するような生き方をせず、今あるもので満足しましょう」。続けてパウロは、聖書に書かれている次のようなエホバの言葉を引用して、みんなを励ました。「私は決してあなたを離れず、決してあなたを見捨てない」。（[ヘブライ 13:5, 6](#) お金愛するような生き方をせず、今あるもので満足しましょう。神はこう言っています。「私は決してあなたを離れず、決してあなたを見捨てない」。6 それ

で、私たちは勇気を持ってこう言えます。「エホバ(*)は私を助けてくださる。私は恐れない。人が私に何を行えるだろう」。を読む。申 31:6 勇気を出し、強くありなさい。彼らの前で、恐れたりおじけづいたりしてはなりません。あなたの神エホバが共に進んでいくからです。神はあなたを見放したり見捨てたりはしません」。詩 118:6 エホバは私の側にいてくださる。私は恐れない。人が私に何を行えるだろう。) エルサレムとユダヤに住んでいたクリスチャンにとって、とても力になる言葉でした。この手紙を受け取ったすぐ後に、家も仕事も財産も手放して逃げなければいけなかったからです。そして逃げた先で一からやり直さなければいけませんでした。

7. エホバへの信頼を今強めることが大切なのはどうしてですか。

7 学べること。私たちはこれからどんなことが待ち受けているでしょうか。「大患難」が始まり、今の世界は滅ぼされます。(マタ 24:21 その時、世界の始めから今まで起きたことがなく、いえ、二度と起きないような大患難があるからです。) 1世紀のクリスチャンと同じように、私たちもしっかり心の準備をしていかなければいけません。(ルカ 21:34-36) とはいって、食べ過ぎや飲み過ぎや生活上の心配事(*暮らしのための心配事/日常生活の心配)で心が圧迫されないよう注意していなさい。そうでないと、その日が全く突然に訪れます。35 わなのようにです。その日は地上の全ての人に訪れます。36 それで、必ず起きるこの全てのことを逃れて人の子の前に立つことができるよう、常に祈願をしつつ、ずっと目を覚ましていなさい。) 大患難の時、大切にしていたものを手放さなければいけなくなるかもしれません。それで、エホバが私たちを見捨てることは絶対にない、と心から信じることが大切です。今のうちから、自分が何を信頼しているか、正直に考えましょう。生き方や将来の計画を見つめ直し、こう問い合わせてください。「自分は本当のところ、お金ではなく、どんな時も世話をしてくれる」と約束しているエホバを信頼しているだろうか。(テモ一 6:17 今の体制(*時代)で裕福に暮らしている人たちに、高慢にならないように、そして不確かな富ではなく神に希望を抱くように教えて(*命じて)ください。神は私たちが楽しむあらゆるものを豊かに与えてくださいます。) 1世紀に起きたことから、私たちもたくさんことを学べます。とはいって、大患難はそれよりもはるかに大変な時になるはずです。では、いざ大患難が始まったらどうしたらいいのでしょうか。

教え導いている人たちに従う

8. イエスは弟子たちにどんな指示を与えていましたか。

8 ユダヤに住むクリスチャンはパウロの手紙を受け取ってから数年後、ローマの軍隊がエルサレムを囲むのを見ました。逃げるべきタイミングが来ていきました。エルサレムはもうすぐ滅ぼされます。(マタ 24:3) イエスがオリーブ山の上で座っていると、弟子たちが自分たちだけで近づいてきて、言った。「教えてください。そのようなことはいつあるのでしょうか。あなたの臨在と体制の終結のしるしは何ですか」。ルカ 21:20 エルサレムが陣営を張った軍隊に囲まれるのを見たら、その時、荒廃が近づいたことを知りなさい、24人々は剣の刃に倒れ、捕らわれて全ての国の人々のもとへ引いていかれます。そしてエルサレムは、異國の人々の定められた時が満ちるまで異國の人々に踏みにじられます。) でも、どこに逃げたらいいのでしょうか。イエスは「ユダヤにいる人は山に逃げ始めなさい」とだけ言っていました。(ルカ 21:21 その時、ユダヤにいる

人は山に逃げ始めなさい。都の中にいる人はそこを出なさい。田舎にいる人は都に入つてはなりません。) その周辺には山はたくさんありました。どの山に逃げたらいいのでしょうか。

9. クリストチャンはどの山に逃げたらいいのだろうかと思ったかもしれません。どうしてですか。(地図も参照。)

9 当時のクリストチャンが逃げられそうな山は幾つもありました。サマリアの山地、ガリラヤの山地、ヘルモン山、レバノンの山地、そしてヨルダン川の東側の山々です。(地図を参照。) そのような山地の中には、特に安全だと思えるような町もありました。例えばガムラという町は、高い山の険しい尾根の上に立っていて、簡単にはたどり着けない場所でした。そこに逃げたら安全だと思った人もいたことでしょう。しかし、ガムラではユダヤ人とローマ人の激しい戦闘が起き、多くの住民が命を落とすことになりました。^{*}この出来事は西暦67年に起きました。クリストチャンがユダヤとエルサレムから逃げたすぐ後のことです。



当時のクリストチャンが逃げられそうな山はたくさんあったが、全ての山が安全だったわけではなかった。(9節を参照。)

10-11. (ア) エホバは1世紀のクリストチャンにどのように指示を与えたと思われますか。(ヘブライ13:7, 17) (イ) 教え導く人たちに従ったクリストチャンはどうなりましたか。(挿絵も参照。)

10 エホバは会衆で教え導く人たちを通して、どうすればよいか伝えたようです。歴史家エウセビオスはこう書いています。「エルサレム会衆の人たちは神慮により、資格ある男子たちへの啓示を与えられた。……彼らは戦争の前に都市を離れ、ペレア地方のペラという町に住むよう命じられた」。ペラは逃げるのに理想的な場所でした。エルサレムからそれほど遠くなく、比較的行きやすい場所だったからです。この町に住んでいた人のほとんどは異国人で、町の大部分は狂信的なユダヤ人とローマ人の戦いの影響を受けませんでした。(地図を参照。)

11 山に逃げたクリストチャンは、会衆で「教え導いている人たちに従[う]」ようにというパウロのアドバイス通りにしました。(ヘブライ13:7) 皆さんを教え導いている(*皆さんの中で率先している)人たちのことを心に留めてください。皆さんに神の言葉を語った人たちです。その人たちの行いがどのような結果になるかをよく見て、その信仰に倣ってください、¹⁷皆さんを教え導いて

いる(*皆さんの中で率先している)人たちに従い、進んで応じてください。その人たちが喜んで働くようにしてください。もし嘆きながら働くことになれば、それは皆さんのためになります。) を読む。) そのおかげで生き残ることができました。確かに、「**真の土台を持つ都市[神の王国]を待ち望んでいた**」人たちをエホバは見捨てませんでした。 ([ヘブ 11:10](#) アブラハムは**真の土台を持つ都市**を待ち望んでいたのです。その都市の設計者および建設者は神です。)



ペラは安全な避難先だった。(10-11節を参照。)

12-13. エホバは自分に仕える人たちが苦しい状況の時、どのように助けてきましたか。

12 学べること。エホバは教え導く人たちを通して、私たちに具体的な指示を与えます。聖書にはそういう例がたくさんあります。エホバは自分に仕える人が苦しんでいる時、信頼できる人たちを通して助けました。(申 31:23 神はヌンの子ヨシュアを指導者に任命し、こう言った。「勇気を出し、強くありなさい。あなたはイスラエル人を、私が彼らに誓った土地に連れて入るのである。私があなたとずっと共にいる」。[詩 77:20](#) あなたは民を羊の群れのように導いた。モーセとアロンの手によって(*に世話をさせた)) エホバが今でも教え導く人たちを使っていることははっきりしています。

13 例えば、コロナがはやり始めた時、「**教え導いている人たち**」は必要な指示を与えました。長老たちは、どのように集会を行い伝道するかについての指示を受けました。パンデミックが始まつてからわずか数カ月後には、インターネット、テレビ、ラジオを使って**500以上**の言語で地区大会が開かれました。信仰を強める食物は決して途絶えることがありませんでした。世界中の兄弟姉妹は同じ指示を受け、同じ食物で養われたので、固い絆を守ることができました。エホバはこれからも、**教え導く人たち**が良い判断ができるよう助けています。どんなに大変な事態が起きるとしても、そのことは確かです。では、エホバを信頼し、エホバからの指示に従うことに加え、大患難に備えて今から何ができますか。

兄弟姉妹を愛し、もてなす

14. [ヘブライ 13 章 1-3 節](#)によると、ユダヤ人の体制の終わりが近づいていた時、クリスチヤンにとって特に何が大切でしたか。

14 大患難の時、互いに愛し合うことはかつてなく大切になります。エルサレムとユダヤのクリスチャンは私たちにとって良いお手本です。いつも愛し合っていました。（[ヘブ 10:32-34](#)以前の日々をいつも思い出してください。皆さんは、啓発を受けた後、数々の苦しみに遭いながら大きな戦いに耐えました。³³ある時には、人々の前で(*劇場の見せ物のように)非難にさらされて苦難に遭い、別の時には、そのような経験をしている人たちに寄り添いました。³⁴捕らわれている人たちに同情し、持ち物が奪われても喜んで耐え忍びました。もっと良い、永続するものを持っていることを知っているからです。）ユダヤ人の体制の終わりが近づくにつれて、当時のクリスチヤンにとって「兄弟愛」を示すことと「人をもてなすこと」はますます大切になっていきました。^{*}「兄弟愛」と訳されている言葉は家族への愛を指すこともあります、ここではクリスチヤン同士の愛の絆を指して使われています。（[ヘブライ 13:1-3](#)兄弟愛を持ち続けてください。2人をもてなす(*見知らぬ人に親切にする)ことを忘れてはなりません。そうすることによってある人たちは、知らずに天使たちをもてなしました。³捕らわれている人たちのことを覚えていてください。自分たちも一緒に捕らわれているかのようです。また、虐待されている人たちのことも覚えていてください。皆さんも同じ体を構成しているから(if*自分たちも一緒に苦しんでいるかのよう)です。を読む。）私たちもそうです。終わりが近づいているので、兄弟姉妹への愛の気持ちを強くしたいと思います。

15. ヘブライ人のクリスチヤンが互いを愛し、もてなすことが必要だったのはどうしてですか。

15 エルサレムを囲んでいたローマ軍は突然撤退し、クリスチヤンはその機会に逃げることができました。でも、物はそれほど持つていけなかったはずです。（[マタ 24:17, 18](#)屋上にいる人は、家から物を持ち出そうとして下りてはならず、18 畑にいる人は、外衣を取りに帰ってはなりません。）山に逃げる時も、ペラで新しい暮らしを始める時も、助け合わなければいけませんでした。多くの人が衣食住を必要としていたはずです。そういう時にも愛の気持ちから持っている物を分け合い、支え合ったに違いありません。（[テト 3:14](#)他の兄弟たちも、差し迫った必要が生じたときに助けになれるよう、引き続き立派な行いに励むことを学ぶべきです。実を結ばなくなつてはなりません。）

16. 愛の気持ちから、困っている仲間にどんなことができますか。（写真も参照。）

16 学べること。私たちは仲間を愛しているので、困っているならぜひ助けたいと思います。これまで兄弟姉妹は、戦争や災害で家を追われた仲間に、進んで助けの手を差し伸べてきました。戦争のために避難しなければならなかつたウクライナのある姉妹はこう言っています。「エホバが兄弟たちを通して私たちを導き、助けてくださっていると感じます。兄弟たちはウクライナでもハンガリーでも、今いるドイツでも、私たちのことを迎えてくれ、助けてくれています」。私たちも困っている仲間を優しく助け、もてなすなら、エホバと一緒に働いています。立場が低い人に親切にする人はエホバに貸しており、神はその行いに報いて(*返して)くださる。[コリニ 1:3, 4](#)私たちの主イエス・キリストの父である神が賛美されますように。神は、温かな憐れみの父、あらゆる慰めの神であり、⁴私たちがどんな試練に遭うとしても慰めて

くださいます。それで私たちは、神からの慰めにより、どんな試練に遭う人も慰めることがで
きます。)



避難してきた仲間に助けの手を差し伸べる。（16節を参照。）

17. 今、仲間への愛を強くし、人を温かくもてなすことが非常に大切なのはどうしてですか。

17 そのように助け合うことは、この先もっともっと必要になるに違いありません。（[ハバ 3:16-18](#)
私は聞き、体の芯が震えました。その知らせ(*音)に、唇が震えました。私の骨は腐り、足は揺
れました。しかし、私は苦難の日を静かに待ちます。それは、私たちを攻める民に訪れる日だか
らです。 17 イチジクの木に花が付かず、ブドウの木に実がならなくても、オリーブが不作に終
わり、畠(*段丘)が食物を生み出さなくとも、囲いから羊が消え、小屋から牛がいなくなって
も、 18 私はエホバのことで歓喜します。私の救いの神のことで喜びにあふれます。）エホバは
今、私たちが仲間への愛を強くし、人を温かくもてなせるよう、トレーニングしてくれていま
す。大患難の間、愛し合い支え合うことは特に大切になります。

これから待ち受けていること

18. 1世紀のヘブライ人のクリスチャンにどのように倣えますか。

18 山に逃げたクリスチャンは、エルサレムが滅びた時、生き延びることができました。持つてい
る物をほとんど失いましたが、エホバとの絆は失いませんでした。何を学べるでしょうか。私た
ちはこれからどんなことが起きるのか、詳しくは分かりません。でも、イエスは、いつでも従う
心構えをするようにと教えてています。（[ルカ 12:40](#) あなたたちも用意をしていなさい。思っても
いない時刻に人の子は来るからです」。）パウロはヘブライ人のクリスチャンに宛てた手紙の中
で、今の私たちにも役立つアドバイスをしています。さらに、エホバ自ら、私たちを絶対に見捨
てないと約束してくれています。（[ヘブ 13:5, 6](#) お金を愛するような生き方をせず、今あるもの
で満足しましょう。神はこう言っています。「私は決してあなたを離れず、決してあなたを見捨
てない」。 6 それで、私たちは勇気を持ってこう言えます。「エホバ(*)は私を助けてください。
私は恐れない。人が私に何を行えるだろう」。）これからも、「永続する都市」、神の王国を心
から待ち望むようにしましょう。そうしている人にエホバは、いつまでも続く素晴らしい幸せを

味わわせてくれます。 (マタ 25:34 それから王は、右にいる人たちに言います。『さあ、私の父に祝福された人たち、世が始まって以来あなたたちのために用意されている王国を受けなさい。』)

何を学びましたか

1. 今エホバへの信頼を強めることが大切なのはどうしてですか。

・S07 私たちは間近に「大患難」待ち受けていて今の世界は滅ぼされるので、1世紀のクリスチャンと同じように、私たちもしっかり心の準備をしていなければならない。大患難の時、大切にしていたものを手放さなければいけなくなるかもしれない、エホバが私たちを見捨てることは絶対にない、と心から信じることが大切。今のうちから、生き方や将来の計画を見つめ直し、「自分は本当のところ、お金ではなく、どんな時も世話をしてくれると約束しているエホバを信頼しているだろうか」と自問するべき。

2. 「大患難」の時、従うことが大切なのはどうしてですか。

・S08-13 エルサレムの滅びが近づいた時のイエスの「山に逃げなさい」という指示のとおり、エホバは教え導く人たちが良い判断ができるよう助け、その具体的な「ペレア地方のペラ」という町に逃げるよう、「山に逃げるように」という指示に従ったクリスチャンたちは生き残ることができた。現代でもパンデミックの時に教え導いている人たちの具体的な指示に従い、信仰を強める食物は途絶えることなく供給され、固い絆を守ることができた。大患難の時にもエホバが教え導いている人たちの指示によって助けてくださることを確信できるので、従うことは大切。

3. 今、兄弟姉妹を愛し、もてなすことが大切なのはどうしてですか。

・S14-17 一世紀当時クリスチャンたちが山に逃げる時も、ペラで新しい暮らしを始める時も、多くの人が衣食住を必要としていたので、愛の気持ちから持っている物を分け合い、支え合ったに違いない。現代でもこれまで兄弟姉妹は、戦争や災害で家を追われた仲間に、進んで助けの手を差し伸べてきた。助け合うことは、この先もっともっと必要になるに違いなく、エホバは今、私たちが仲間への愛を強くし、人を温かくもてなせるよう、トレーニングしてくれている。大患難の間、愛し合い支え合うことは特に大切になる。

157 番の歌 平和が満ちる時

聖書時代、多くの都市は王によって治められました。それで、そういう都市は王国と見なされました。(創 14:2)

この出来事は西暦67年に起きました。クリスチャンがユダヤとエルサレムから逃げたすぐ後のことです。

「兄弟愛」と訳されている言葉は家族への愛を指すこともあります、ここではクリスチャン同士の愛の絆を指して使われています。

(ヘブ 13:14) 私たちは永続する都市をここに持っておらず、これから来る都市を心から待ち望んでいるのです。